

平成29年度 第4回石狩市社会教育委員の会議 議事録

日 時 平成30年2月22日（木曜日）午後3時00分～4時30分
会 場 石狩市公民館第1研修室
出席者 木村委員長、大橋副委員長、石井（量）委員、石井（滋）委員、榎本委員、
相馬委員、船木委員、平委員、高橋委員、松本委員、宮田委員
事務局 東次長、須藤主査、斉藤主査、栗谷主査、西山主査（厚田生涯学習課）

斉藤主査：ただいまから第4回石狩市社会教育委員の会議を始めたいと思います。まず始めに石狩市教育委員会教育長鎌田英暢より御挨拶申し上げます。

鎌田教育長：皆さんどうもこんにちは、2月も半ばを過ぎ、明日から第1回定例市議会が開催されます。そのことも含めて、春、新年度を迎えるそんな感覚では実はいますけれども、厳しい冬が居座り、春まだ遠い今日この頃です。

本日は、大変お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。ちょうど本日の会議が今年度最後、そして任期が5月末で、2年間の任期中最後の会議という風に聞いております。これまでそれぞれの立場で貴重なご意見など真摯で活発な議論をいただきまして改めてこの場を借りて感謝を申し上げたいと思います。また非常に残念なことではありますが、同じ委員として本市の社会教育行政の推進に大きなご尽力いただきました大黒利勝さんが昨年5月22日にご逝去されました。改めて故人に対する感謝を申し上げますとともにご冥福をお祈り申し上げる次第でございます。

さて、少し社会教育をめぐる行政についてお話したいと思います。今日におきまして、少子高齢化・人口減少は「待ったなし」の現状にあります。人口減少により低迷した地域経済は、負のスパイラルに陥り、地域そのものが崩壊・消滅の危機に瀕するなど、教育の取り巻く環境も大きく変化してきております。今後、地域社会が連携・協働して、次代を担う地域の子どもたちの「ふるさと」への理解と愛情を育み、自らの可能性を切り拓き、より良い社会と幸福な人生を創り上げるという意欲を持つことが出来る「ひとづくり」が求められていると考えます。

そのような中、皆様におかれましては定例の会に留まらず、厚田・浜益両区の現地視察やあるいはパネルディスカッションでの地域住民との意見交換など、地域の現状や課題の把握を積極的に進めていただきました。このことは、今の時代に求められている行動する社会教育委員を先進的に実践されたわけでありまして、この点につきましても深く敬意を表するところでございます。

今後、人生100年を見据えた「二つ目の人生を生きる力」が必要になるといわれております。より長いスパンで、個々人の知恵と経験を元にしながら新たな生きがいを見つけ、人生の再設計をできる社会をつくることが大切です。

そのためには、このような社会の変化に呼応した教育、多様な学習機会の確保等を進めることが必要であり、今後も皆さんのお力をいただきながら、家庭・学校・地域の教育力の向上に努めてまいりたいと考えております。

本日は、先ほども申し上げましたように今年度最後の会議となります。平成29年度の実施事業の振り返りと次年度以降の方向性などについて、ご議論をいただくという風に聞いてございます。大所高所からたくさんのご意見を賜れば幸いに思っているところでございます。最後になりますが、あらためて2年間の活動に心からお礼を申し上げるとともに皆様の今後の益々のご活躍をご祈念いたしまして、簡単ですが開会にあたっての私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

斉藤主査：では、つづきまして木村委員長より御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

木村委員長：教育長からいま御挨拶をいただいて、最後の社会教育委員の会議となりますけれども、今年は初めての会議ですので、よろしくお願いします。ということで始めたいと思います。今日は、石狩管内市町村社会教育委員等研修会やフォーラム石狩への参加の報告のほかに、平成29年度社会教育事業実施報告や平成30年度社会教育関係予算案や主要な社会教育事業の概要（案）について話したいと思います。それから、昨年末11月末に私と社会教育主事の方と一緒に浜益でヒアリングしてきましたので、簡単なそのときの実施報告をさせていただいて、今後どうするかって言うことについてもご意見伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

斉藤主査：ありがとうございました。なお教育長は次の業務のためここで退席させていただきます。ご了承ください。

【教育長退席】

斉藤主査：これ以降の報告・協議等につきましては木村委員長にお願いしたいと思います。木村委員長お願いいたします。

木村委員長：では、会議次第に従いまして、会議を進めていきたいと思います。最初に、報告ですけれども平成29年度石狩管内市町村社会教育委員等研修会が北広島市で昨年11月12日に開催されました。この会議には、石井委員と相馬委員と船木委員が出席されて

おりますので、それぞれに感想や報告をいただきたいと思います。

石井（滋）委員：事例発表という形で、大曲地区と東部地区の生涯学習振興会の発表がございまして、一応私も、いしかり市民カレッジに所属しているものですから、そういう意味で興味深く聞かせていただいたのですが、やっぱりそれぞれの地域事情があります。色々な問題点も違う面もありますけど、同じような面もあって。そういう意味で言うと非常に参考になる話ではなかったかというふうに私個人的には思いました。特に私が興味引いたのはその事例発表の部分でございます。

木村委員長：ありがとうございます。それでは相馬委員にお願いいたします。

相馬委員：それでは私のほうから発表させてもらいますけれども、気がついたことを聞いてもらいます。江別のフォーラムも参加させてもらいました。いろいろと資料もたくさん提供してもらって勉強になりました。江別もですけど、特に北広島や恵庭の社会教育が色々な活動していることに感心し、なかなか市民も大変だと思いましたし、行政のほうも大変な仕事だと思いました。

私が良かったと感じたことは、色んな学習の内容を全市民対してPRすることが大事だというお話がありました。地域住民はいろいろな社会教育的なことをしているのですが、私も含めてなかなか地域ではそういう話が出来ない。これからは全市民にいろいろな学習をやった結果など、機会あるごとに情報提供するということが大事だと思っています。地域の会合にも出ますけども割と知っているようですけども、僕も含めて地域の人ってどういう学習しているのか、どういう活動しているのかあまりわからない。特に浜益の人口は少なくなったということもありますので、そんな悩みがあると思うんです。小さなことでもいいから情報提供するというのが、なかなか大変なことですけども、そういう部分で考えて社会教育をすすめていくべきだと考えています。スポーツ関係、学習関係、ボランティア関係等、なかなかこれを進めていくのは大変だなあ、大変だけれども特に市民が少しでも学習できることがあれば、皆で力をあわせて、やる必要があるということをお話しされておりましたけれども、私もそう思いますし、やる側、学習する側も含めていろんな面で連携をとりながらやっていく必要があるという感じがしました。地域の中で、学習面で、色んな事業をした結果等を情報提供することがこれから特に大事になってくる気がします。

木村委員長：はい、ありがとうございます。船木委員どうぞ。

船木委員：北広島市の建て替えたばかりの市役所の庁舎に入れたので、貴重な機会だったという印象を持ちました。全国大会が終わったすぐあとだったので、そのときに知り合っ

た委員の方ともお話をする時間があり、とても印象深く残っています。

北広の特徴はお二方がお話されたように、5つか6つに分かれた市の地区ごとに独自の社会教育の取組を市民が行っているという特徴、その際たる特徴のある2つの地区が発表されたということで、その内容が衝撃的でした。市役所じゃなく、我々がやるんだ、みたいな発表でした。その地区によって内容が違うというところがとても刺激になりました。他の委員さんたちも刺激になったんじゃないかなと思います。

グループディスカッションの後、基調講演は酪農学園大学の松本先生。社会教育委員とは何をやるのですか、という問いかけだったように思いました。自治体職員の教育訓練をずっと長らくやってきて、君たちは何をやる人だぞというところを社会教育委員向けに改良されて、お伝えいただいたのではないかと思います。ポイントはですね、役所は役所の仕事があるので、市民が委員になった意味をどう考え、何をやるのですかというようなことを考えさせる時間をいただいたのではないかと感じました。

このような機会がやはり社会教育委員それぞれに、市役所の予算の中で配慮いただけるということの意味がこういうことなのだなと思ったので、是非委員としての、何か機会をみて、貢献したいなという風に思いました。ありがとうございました。

木村委員長：ありがとうございました。私も北広島市の生涯学習振興会のことを勉強したいなという風に思いました。ありがとうございました。次に11月18日に開かれた、フォーラム石狩に出席いただきました。大橋委員いかがでしたか。

大橋委員：「フォーラム石狩」のテーマは、「生きる子どもたちの力を信じて～手をつなごう家庭・学校・地域～」でした。江別市からは「コミュニティースクール」、北広島市からは「学校支援地域本部」の事例が報告されました。北広島市の学校支援地域本部の事例では、成果として①子どもたちに専門的な学習機会の増加、②子どもたちの学習理解への深化、③子どもたちの学習意欲の向上、④学習支援ボランティアの生きがいがづくり。課題として①学校との連携強化、②学校支援ボランティアの高齢化、③学校支援ボランティアの拡大、が報告されました。

石狩市の学校支援ボランティアの活動として、浜益区の果樹園活動、厚田区の鮭を捌く活動などが新聞でも紹介されていました。石狩市の学校支援地域本部の活動について学習する場を計画したいと思いました。

木村委員長：平成29年度社会教育事業実施報告について事務局から報告があります。

斉藤主査 【説明】

木村委員長：どうもありがとうございました。この厚田学・浜益学講座っていうのは、厚

田で開かれたとき、浜益の人が行ったり浜益で開かれたとき厚田の人が行ったりするって
いうことでしょうか。どれくらいの参加者がいますか。

西山主査：平均すると大体一回 25 名ぐらいです。

木村委員長：一回 25 名のうち例えば、厚田でやったときは何人ぐらい浜益から来ていま
すか。

西山主査：ほとんどは花川地区からです。

木村委員長：花川地区からですか。浜益でやったときは。

西山主査：浜益からは数名で、半分以上は花川地区からです

木村委員長：花川地区からですか。浜益でやったときは。

西山主査：はい、浜益でやったときも半分以上は花川地区で、厚田浜益からは 3〜4 人ずつ
ぐらいです。

木村委員長：どうも、ありがとうございました。

西山主査：厚田・浜益学講座開催の経緯は、道の駅ができたのちに厚田、浜益のことをガイ
ドしてくれる方を養成するというのがそもそもの始まりです。いきなりガイド育成講座
というのもちょっとハードルが高いので、まずは厚田・浜益のことを学んでいただこうと、
厚田浜益から花川地区にかけて広く募集をかけています。一年目は 3 月末で終わりになり
ますけれども、次はちょっとステップアップして、どういうガイドの仕方をしていくかとい
うことを、ガイド先進地に行って学ぶということを取り入れていきたいと考えています。

木村委員長：花川の人が浜益に行くときは自分で行かないといけないのですか。

西山主査：バスを出しています。

木村委員長：そのバスに乗ることができれば、私も浜益に行くことができますか。

西山主査：はい、市役所発着にしています。

木村委員長：どうかたちで、このあとだんだんレベルアップしながらガイドを出来る人を育てていくという構想になっているのですね。

西山主査：なり手が少なく難しいところもありますが、まずはやってみて、スタートしていく中でまたガイドを探していくという形になります。

木村委員長：ありがとうございます。なにか質問とかはありますか。それではどうもありがとうございました。では、つぎに協議に入りたいと思います。平成30年度社会教育関係予算案と平成30年度主要な社会教育事業の概要（案）について、事務局から説明をお願いします。

須藤主査 【説明】

栗谷主査 【説明】

木村委員長：予算案の額と事業の内容概要についてお話いただきました。何かご意見ご質問ございますでしょうか。

木村委員長：ソフトボールの合宿地ってどこで合宿するのですか。

東次長：石狩市スポーツ広場というのがありまして、道内でも屈指のグラウンドであり、去年の夏にも全国レベルの選手に来ていただいて、練習をしていただいています。ソフトボール専用球場というのは全国的にもあまりないので、私どものまちで合宿を誘致しています。

木村委員長：どこで合宿をしてもらうのかっていうところまでは。

東次長：これからですね。私ども宿泊施設としては無かったので、なかなか厳しかったんですが、これから今後できるという形に大きな方向性が見えてきましたので、そういう部分が生かせるのかどうなのかということも含めて、そんな話になっていくのかと思います。場所についてはまたこれからになります。

石井（滋）委員：ふるさと学び伝える取組ってところのですね、史跡看板っていうのはどこの看板にあるのでしょうか？

斉藤主査：これはハママシケ陣屋跡の看板ですね。

石井（滋）委員：ハママシケ陣屋跡の看板ですね。わかりました。それですね、これは次年度とかいう話じゃないですが常々非常に思っているのが、紅葉山 33 号の看板が、ご覧になった方いらっしゃるかどうか分かりませんが、ほとんど無地になってますので、あれをなんとかして、せっかくの、何とかならないかなあといつも思っています。

栗谷主査：今のご意見は、担当課にもお伝えさせていただきます。

石井（滋）委員：なんとかお願いしたいと思います。

高橋委員：関連で、樽川の方の新港の大きな通りの所にある立派な石碑ですが、いしかり市民カレッジの講師の先生が鎌で前日に刈らないといけないというような状態です。草の中に隠れていて、とても近づける状態じゃなかった。

須藤主査：新港の碑ですね

高橋委員：はい。何とかならないかなと思います。

木村委員長：円形校舎のことですけど、学校自体はまだ統廃合して校舎をどうするかっていうことは決まっているのですか。

東次長：八幡小学校に統合するという大きな方向性は決まっています。

木村委員長：統合すると決まっても円形校舎は残そうと。

東次長：残すということで地元の期待があり、実際にその活用についてどうしようかということについて色んなある方に集まっていただいて、じゃあ保存しようというようなことです。

木村委員長：大体いつ頃の予定ですか。

東次長：2020 年です。

石井（滋）委員：円形校舎としてはいま残っている唯一のものなんですね。

東次長：実際に活用しているということでは。

木村委員長：他にありませんか。

高橋委員：道の駅のできる厚田の周辺がどういう状態になるのでしょうか。野外コンサートなどができるような感じの広場があるのでしょうか。

西山主査：駅の正面に広いスペースがあるとは聞いています。

高橋委員：ちょっと高くなったところの噴水なんかあるところは。

西山主査：あそこは公園になっていますよね。あとは、遊具ができるとも聞いています。

船木委員：いきなり建物の 2F からその公園にいけるみたいですよ。2F か 3F の屋上だったか、それが向こうにつながっているらしいですよ。

木村委員長：社会教育の事業としてどういう風にそこは活用するのかっていうところは知りたいですので引き続き情報があれば教えていただきたいと思います。

船木委員：主な、新年度の概要の説明があったところですけども、30 年度は是非みたいなところ、例えば継続している事業であっても、今年はこれ、みたいなところがいくつかポイント、予算要求していく中であったと思いますけれども、その辺で是非社会教育委員にこの場でね？伝えておきたいことってあるんじゃないかなと、ちょっと思って、満遍なく説明されたけどもぜひみたいなところは、俳句のところでは一幕あったけれども。

栗谷主査：コンテストは一般で 13 回、子どもで 12 回やっております。俳句のすばらしさというものを、小さいときから、身近に感じてもらえるような取組で、今回 150 年という部分もあったり、29 年度に子ども教室やったときに、良い句ができたりとか、真剣に取り組む姿を色々見たりとか。こういったものは、一般の成人の方々が中心にとらわれがちですけども、子どもの発想とか今までないものを取り組んで、それが広がっていくというところがいいなってという感じがあります。今も TV でプレバト（※TBS 系列のテレビ番組、俳句コーナーがある）とか俳句関連番組があり、いろいろな場面で触れる機会を設けて、俳句のまち石狩を普及させていきたいというのは、あの今年度 30 年度の打ち出しではあります。

東次長：私から若干補足ということで話したいと思いますが、市全体としては道の駅というのは非常に大きなポイントです。スポーツだとか観光というところなども含めて厚田・

浜益の魅力を広く伝えるという取組が様々な形でなされるということで文化財関係でも私どもの所管社会教育全体としてはガイドを育成するということが必要であるとともに、去年からの継続ですが、放課後すこやかスポーツ教室は非常に大きな部分だと思っています。体力がない子どもたちが多い状況にあって、この事業をやることで、対象校の子どもたちが前期の結果ですが、上向きになっています。週1回1時間程度の運動ですが、専門の指導員がしっかりトレーニングをしているということで、一定程度の効果があったいえます。2年目は実践を更に深めていく中でどんなことができるのかというところを更に検証していきたいと思っています。それと2ページ目の生涯学習講座開催費85万円は、例年から40万円程上回っていますが、この分につきましてはいしかり市民カレッジが今年で10周年にあたることから、一部、式典や祝賀会、様々な催しが計画されており、一部支援をさせていただくという予算を計上させていただいています。それから、俳句の部分につきましては、先ほど申し上げた新年度の分には非常に大きな位置づけです。道で150年であったり、明治で150年だとか区切りの年の中で、私どものまちとして非常に歴史のある俳句というものを大人も子どもについても広く更に広く関わっていただけるような取組を進めていきたいと考えています。あとは図書館になるんですが、学校司書を今まで小学校に配置もしくは派遣という形で、全部の学校に置くことが出来ました。次の段階は、新規事業として、中学校にということ予算要求させていただきまして、小学校で子どもたちが図書館の活用で様々な学んでもらった部分を中学校でも活用できないかと、そういう展開を図り進めていくところがございます。大きな道の駅という部分をひとつのキッカケにしながら、それにともなって私どもも色々な工夫をしながら進めていきたいと思っています。補足は以上でございます。

大橋委員：文化振興費の文化協会の予算が増えたいですが、教えていただけますか。

東次長：文化協会につきましては、市民文化祭あるいは俳句のまちいしかり等の文化振興で非常に市の中心になって活動いただいております。ここ2年ほどで、文化協会の加盟団体も6つぐらい増えています。常に努力していただいております、更に俳句など文化振興の面から、体制強化するため、この予算を計上させていただいてございます。

木村委員長：よろしいですか。他はいかがでしょうか。

相馬委員：学校の先生方も時間外が問題になっているようですが、放課後スポーツ教室の予算の関係でもあります。先生方も勤務時間が大変だと言われておりますけど、スポーツ推進委員のような人の役割ってこれから大事になってくると考えております。僕の知っている限りでは、大変申し訳ないですが、石狩の子ども達の体力測定結果がマイナスというデータがでていますので、そういうことも含めて体力というところからいくと、先生方の

勤務時間の問題もあり、これからさきやっぱり子どもたちの健康増進をするためにはどう
いうことをやっていけばいいか今から問題提起して考えていかなければならないと思いま
すがその点いかがですか

東次長：相馬委員ご指摘の通り全国体力運動能力調査においてもなかなか厳しいという石
狩市の状況がございます。そういった課題がある中で、この放課後に 1 時間程度ですが、
放課後体育館で実施しました。多い学校では 30 人くらいです、少ないところでは 1 桁ぐ
らいの子どもが集まってコーディネーション運動。色んな運動をする基礎となる運動を、
しっかり取り入れた競技をして、効果が実際に現れているという風に思っています。教員
の先生方も実際は素人ですので、小学校においては全ての教科を担当する中で、多忙感も
含めて、全てにおいて整理が出来る形がなかなか難しいという状況も聞いております。そ
ういった中で一部こういった放課後にまずは、子どもたちの体力向上で、サポートしてい
ければと思います。その効果がしっかり現れたときに、じゃあ次の手法としてどのようなこ
とが出来るとかということについては更に検討していく必要があるだろうと思っておいま
す。今、ご指摘のあった体力向上の部分であるとか、あるいはその学力であったりだとか
もしくは生活習慣にも様々な課題があると思っております。その部分については学校支援
なども含めながら様々な形で学校を地域が支えていくということをこれからも続けていき
たいと考えております。

木村委員長：はい、ありがとうございました。

高橋委員：あの、手話について、先日の TV でかなり長い時間石狩市の市長さんが出演し
てやっていました。学校教育でもかなり取り組んでいるようですが、どこかに入らなくて
もいいのかなというような気はします。

斉藤主査：私たちの課で行っている出前講座にも手話の講座の要望がたくさんあります。

東次長：条例化して手話を言語であるという考えをもとに様々な事業展開をしていくとい
うことで、学校は学校でまた地域は町内会ベースでまた色々な形で取組を進められていま
す。私どもは、はまなす学園というところでも実際にその講師の先生をお招きして実習し
ているとか。あるいは寺子屋といいます子どもたちの放課後の教室で実習しておいま
した。特出しして手話の部分について記載がなかったということについては、確かなところ
で今後どのような形でこの部分を盛り上げていくかということも一つの課題ではあるかと
思うので、委員の皆さんにまたお知恵をいただきながら今後更なる広がりに向けて整理を
させていただきたいと思います。

木村委員長：他にいかがでしょうか？

もう少し事業全体が見えてくる中で、社会教育としてもどういう風にするのかとあらためて思いました。

他にありますか。よろしいでしょうか。では来年度の予算案とそれから事業の概要について今日お話ししていただいた方向ですすめていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは次に、前の社会教育委員の会議でもお願いした今年度の浜益で現地調査を行って、その後どうするかということで、皆さんに報告とお計りしたいことがございますので私のほうからお話したいと思います。A4の2018年2月18日、「石狩市浜益区の面接調査の結果についてのメモ」というのをお配りをしてあります。去年の11月の19日の日曜日と20日の二日間にわたって、浜益の地域のリーダーっていうか、これからリーダーになっていただきたいという方も含めて10名の方を選んでいただいて、ヒアリングをしました。斉藤さんと栗谷さんが同行してくれ、支所の職員の方々にお世話になって実施することができました。その日の夜は浜益に泊まらせていただいて、支所をはじめとして懇親会を持つというようなこともできました。それで、ここに書いてあるえっと10名の方、30代の方が2人、50代が3人、20代が3人、70代が2人です。男性が7人に女性が3人の方に、1人1時間くらいのヒアリングをいたしました。

今日はとりあえずの報告ですから、詳しい報告の機会をどう持つかっていうことについてこの後話したいと思いますけど、調査をして特に強く感じたことはですね、合併してから高校が無くなってしまうということは、想定外のことだったと。そのことについて多くの方が戸惑いを感じていました。そして高校が無くなると、学校の先生や職員が居なくなり、高校生が札幌に出て行くっていう風に思っていたけど、高校生と一緒に家族も一緒に居なくなるっていうことは全く予想していなかった部分なので、そのことに戸惑っているっていう感じを皆さんは持っているんですね。高校の廃校が地域の人口減少に拍車をかけることになったことに驚いているということです。それから、買い物ですね。お店が浜益にもあるんですが、地元で買い物をしないで、札幌に行くか、石狩のイオンとかに、比較的年配の人は1週間に1回だとか2週間に1回行って、まとめ買いをしている事もあります。また、若い世代はインターネットでの買い物が増えているという事に驚きました。これは、このまま行くとお店が無くなる可能性があると思います。お年寄りが運転できなくなったときには、移動販売とかもありますけど、やっぱり生活していくために買い物はどうするのかっていうところはきちんと考えたほうがいい状況にあると思います。

それから漁業だとか畜産では、むしろ人手不足ということです。自動車整備会社の方にヒアリングに行ったときに、そこにちょうど畜産の方とそれから漁業の方がいらっしゃって、畜産の方が今年一番儲かっているのは漁業だと。鮭とか全道的には捕れなかったようですが、日本海側は好調だったとのこと。でもその人たちにお聞きすると、全然人が足りないということです。だから漁業や畜産は新しい担い手が必要です。だから新しい人

がいればもっと拡大というか生産を高めるということが出来るけれども、もう現実的には東京オリンピックまでは無理だと。東京オリンピックまで持つかどうかだと。つまり人手不足の問題ということがあるんですね。

それから、自分の子どもたちがずっと浜益に残ってくれるとか、今離れている子が戻ってくるということを確信している人はこの10人の方の中にはあまり居ませんでした。そう考えると、放っておけば確実に人口減少は進まざるをえないということではあります。私は新しく漁業をやりたいとか畜産をやりたいという人が来るような状況にどうするかだと思います。だからそういう意味では全く見通しがなくて、暗い状況にあるということではなくて、千数百人の地域としては比較的リーダーの人たちはいると感じました。そういう意味では、将来を悲観して何か暗いっていうか困っているという状況では全くないと感じました。そのことについてもう少し調査をきちんと時間を掛けて詳しくお話をする機会をしたいと思います。

この話し合いの中で出てきた課題が一体どういうことがあるかって考えたときに、一つは、高校進学後に家族も一緒に出て行くっていうことがないようにするにはどういう手立てをとればいいのか。例えば下宿をするための費用を高校生1人1万円出すとかね、そういうようなことをしていけばいいわけです。だから地元から出てって、旭川とか札幌とか石狩に下宿して通わなきゃいけないというような人たちにきちんと補助金を出すとかね。そういうことが出来れば、家族がそろっていなくなるということには少しは歯止めにはなるのかなと。それから当然高校が無くなってこういうことが起こっているわけだから、今後の小中学校も存続だとか 統廃合についてもそういう可能性も含めて、しっかりと考えていかなければいけないということがあるということです。

買い物については、特に高齢者の買い物をどう支援するかということはよく問題にもなりますし、要するに不便だからといって、地元で物を買うという取組をある意味では意識的にやっていかなければ、お店は全くなくなってしまいます。お店が全く無くなってしまっているのか、そういうことも含めて、地域の人の中で話し合いをしないといけないのではないかと思います。

3番目は、漁業や畜産の担い手をどう確保するかということです。これは新規就業者を受け入れることが必要か、その場合それを支援する仕組みを地域にどう作り上げるかということが大事です。厚田だと、札幌の若者が漁業するために通っているっていう事例があってびっくりしましたがけれども、浜益の場合は難しい。遠すぎますからね。だからやっぱりその出て行くことだけを心配するだけでなく、地域の畜産だとか漁業の可能性だとか、ある意味ではそのあの働き甲斐みたいなことをしっかりとアピールしながら、そういう新規の就労者を受け入れるにはどういうことが必要なのかということを地域で考えていかなければいけないということですね。

それから、子どもたちの世代が、なかなか浜益に戻ってくるというのは難しい。場合によっては、この人たちの中には子どもたちの家族のところに、1人や夫婦だけで暮らして

いけなくなったら、移っていくということはやむをえないとしても、浜益で暮らし続けたいというお年寄りには出来るだけ暮らし続けられるようにするという事。そのためにどんなことが必要なのか。あるいは浜益では駄目だけど、せめて石狩には残りたいというようなことについて、どうするのかとか。そういう少しきめの細かいお年寄りに関する対策をどうするのかということも必要です。

子どもたちが浜益を故郷として大切にすることができるような、浜益って、こんなにいいところなんだよっていうことを、学校を含む教育の中で学ぶということが大切で、これは社会教育の課題でもあると思います。

今後は医療や福祉のことも含め、浜益の良さというようなことも聞いていますので、まずこういう問題について浜益区の人々が自由に議論できて、解決策を学ぶための適切な場を作っていくことが社会教育としては大事だと思います。

それで、私としてはもう少し順調に行けば3月中にと考えていましたがなかなか集まっていたくのも大変なので、ただ行政とか社会教育の皆さんでその結果をちゃんと話す機会を作ってくれ、あるいは話せというのであればいつでも都合をつけたいと思っていますが、こういうことについて、浜益と石狩の方で調査結果を報告する機会を来年度作りたいという風に思います。私としては、もし可能であれば、例えば厚田学・浜益学のなかで、1回浜益で話をさせていただくという事はできないのだろうかという、そうすると、別に私講師料いただきませんので、あの連れてってさえくればお話をしますので出来るだけわかりやすくお話をしたいと思います。そういうことも考える余地があるかどうかということ。またそういうことがいいかどうかということも含めて話をさせていただきたいと思います。いかがでしょうか。社会教育委員の任期も5月までですから、5月前にやっていきたいと思いますが、例えばそういうことが可能かどうかという、もう全部決まっていますからね12回。

西山主査：来年度の講座は、ガイド先進地を見ようという講座が主です。年度の後半はそのガイドのためのガイドブック作りに切り替わる予定です。

木村委員長：それなら、無理にとは言いません。

船木委員：将来の人口推計の話題をすれば、50年後100年後、札幌圏以外は極端に少なくなる将来推計になっています。そういう意味では、将来は人が住まなくなるというのが見えていますね。

木村委員長：私は必ずしもそうは思っていない。農業とか漁業とかの可能性があって決して希望がないわけではありません。

船木委員：平成の大合併で3つの自治体がくっつきました。その後どうするかっていうのは色々な課題があると思います。

木村委員長：要するに、これはあくまでも外から見た私の話をしているわけなので、一番大事なのはこういう風に、私はヒアリングをして考えましたが、浜益の皆さんはどうでしょうか、という対話があって、地元の人たちはそういう問題を自分たちでどう考えるかという、それが大事なので。そう場所をつくってもらいたいということです。だからその結果について話をする場にはいつでも行きますので、そういう場所を出来るだけ設定していただければと思います。

大橋委員：浜益・厚田に地域協議会がありますよね。同じようなことについては話し合われていると思いますので。だからその辺のことを少し関連付けて、地域協議会に、あの社会教育委員の僕らがプラスアルファで参加していくか、年間通した計画の中にこういうのが位置づけられると、より深められるかなあとと思います。

木村委員長：支所長さんとは何度か話をしていますので、支所長さんに直接こういう結果がでましたので、地域の皆さんと一緒に議論しあうような場所を作ってくださいというのは私のほうから言いますけれども、そういう動きかけをしてもよろしいですかということも含めて、皆さんにおはかりしているわけです。

船木委員：予算をくれだとかという話題ではなくて、こういう声がありますよということを知ってもらいましょうという社会教育委員ですよね。

石井（量）委員：出て行くひとを考えるより、人を集めることを考えるのはどうでしょうか。今の若い人の中にはたまたま農家の仕事を手伝って、その後農業が好きになってやっている人もいないですか。だから漁業とか農業とか、浜益に年間何回か来てもらって、報酬みたいなものをやって、興味を持ってもらう、そうすると何回か繰り返していくと中には何人か関心を持つ人もいないかなって思います。都会の女の子が田舎の方に住み着いてこんなことするのって、びっくりするようなこともあります。居なくなることばかり、出て行くことばかり案じるのではなくて、企画をして人を集め、体験してもらったら、中には住みつく人も出てきてくれるかもしれないし、きっと他にはない魅力的なものを広めていくきっかけにもなると思います。きっとそこに長く住んでいる人には気づかないもの、いつもあって当たり前のものが、他の地域から来たらすごく新鮮で豊かで見えたりするんじゃないかなと思います。

石井（滋）委員：委員長、ちょっとお尋ねしたいのですが、よく他所から聞きに行くとな

んかちょっと微妙なの面がございますよね。この10人の方は、そういうことではなくて、何とかしたいという感じですか。そういう意識があるっていうことであれば、突破口もあると思います。

木村委員長：支所との間でその結果報告というのは出来ると思うのですが、ただ地域の人たちにもそれを公開してやるっていうのは社会教育、行政が意図的にやらないとできないと思いますし、そういう方向で進めていきたいと。浜益では公開の場所を作りたいと思っています。

石井（滋）委員：やっぱり一緒になってお話しを聞いて、今おっしゃったようにやっぱり聞いてみたらいいですよね。そこからやっぱり何か出てくると思います。

木村委員長：どういう風に皆が考えているのだっていうことをやっぱりお互いが理解しあいながら、やっぱり黙っていたらいけないということです。もっと皆で工夫しようとか、もっと皆で勉強しようとかいう風になっていくことが社会教育の役割だという風に思います。ということで、具体的には事務局と詰めて、そういう方向で進めていきたいと思っています。また、行政に対しても補足的なヒアリングもちょっとやろうかなと思っています。それは私のほうで進めてやっていきたいと思っています。よろしいですか。

はい、どうもありがとうございます。それでは、最後に、その他の案件について事務局からお願いいたします。何かありますか。

斉藤主査：特にありません。

木村委員長：特にないという事なので、以上で本日の議案は全てご審議いただきました。この社会教育委員の任期としてはこれが最後の会議で、この場でもしかしたらお会いするのが最後になるのかもしれませんが、これからも石狩の社会教育についてどうぞ、いままでも皆さん積極的にお話していただきましたけれども、これからも事業に参加すること含めて、色々積極的にご提言をしていただきたいと思います。ありがとうございます。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成30年3月22日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木 村 純 印